

赤れんがNews

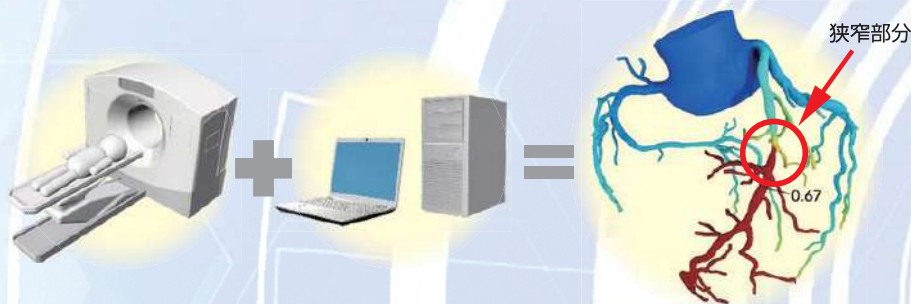


体に優しい心臓検査「FFR_{CT}」～3Dモデルで血流を解析～

新しい心臓の検査であるFFR_{CT}解析システムを導入しました。

この検査では、冠動脈が狭くなって心臓に十分な血液を供給できなくなる狭心症疑いの方に対して、コンピュータによるシミュレーションで血液の流れを測定できます。

FFR_{CT}解析は非侵襲的検査（痛みを伴わない検査）であり、冠動脈CT検査の画像データをもとに最新のコンピュータ技術で解析を行い、それぞれの狭くなった部分（狭窄）が心臓の働きにどのように影響するかを患者さん個別の冠動脈3Dモデルで結果を確認でき、これまでは侵襲的なカテーテル検査でしか得られなかった診断が可能になりました。この画期的なFFR_{CT}解析は鳥取県内では鳥取大学病院と当院が導入しています。



CT画像を専用のシステムで解析し、わかりやすい3D画像に変換します。○印の部分が狭窄部分であり、その先の赤黒くなっている血管は血液の流れが悪くなっていることが表現されています。

鳥取県初 スペクトラルCTを導入

このたび機器更新した「Philips Spectral CT7500」は、高速（胸部～骨盤部まで約2秒）で撮影できるため、体動の抑制が困難な救急領域でも診断精度の高い検査が可能となります。また、すべての撮影で2種類のエネルギー情報を取得しているため、さまざまな画像情報を提供できるだけでなく、従来より半分以下の造影剤量でも診断能の高い画像を提供できるため、体に負担の少ない検査が提供できます。



山陰初の新しいがん放射線治療【放射性同位元素(ルタテラ)内用療法】

放射線を出す元素を体内に投与する治療法は「内照射」と呼ばれています。この内、放射線を出す元素である放射性同位元素やこれを組み込んだ薬剤を身体に投与（内服もしくは注射）してがんの治療を行う方法は、「放射性同位元素内用療法（核医学治療）」と呼ばれています。

このたび、新しい内用療法として「ルタテラ内用療法」が始まりました。

ルタテラ内用療法は、膵、消化管、肺等の全身の様々な部位に発生する神経内分泌細胞に由来する腫瘍である「ソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍」が適応となります。現在すでに第1例目の患者さんの治療が行われていますが、腫瘍マーカーは第1回目の投与後に正常化しており、治療の効果が現れています。



体内注入する医薬品「ルタテラ」

シミュレーションセンターの開設

当院では、鳥取県東部医療圏の医療従事者の臨床技術の向上、人材確保等を目的として鳥取県立中央病院シミュレーションセンターを本年5月15日に開設しました。

センターが主催、または共催する研修会のほか、当院とセンターの利用について協定を締結した医療機関等が、ご利用になれます。

消化管内視鏡治療や超音波検査のトレーニングシミュレーター、新生児用の気道管理トレーナーなど設備も充実しており、これからの医療研修に大いに役立つものと期待しています。



令和5年度市民講座予定

当院で行っている専門的治療や一般的な病状病態について、わかりやすくお伝えします。今年度の開催予定は以下の通りです。

- ① 6月17日(土)午後2時
テーマ「高齢者肺炎について」
- ② 8月6日(日)午後2時
テーマ「(消化器系)」
- ③ 10月28日(土)午後2時
テーマ「骨粗しょう症について」
- ④ 令和6年2月24日(土)午後2時
テーマ「(腎臓関係)」

※上記は予定であり、予告なく変更になることがあります。(詳細は別途院内掲示等でお知らせします)

ご来院の皆様へのお願い



新型コロナウイルス感染症は、5月8日に第5類へ移行となりましたが、当院へお越しの際には「マスク着用」をお願いしています。ご理解とご協力をお願いいたします。

県立中央病院を支える スタッフシリーズ

Vol.06

図書室司書 ～様々なニーズに対応～

当院には職員用と一般利用者用の図書室がありますが、それを管理しているのが、図書室司書です。

職員用図書室では、配架されている書物以外でも、Web系の電子書籍に関することから、図書室に配備されている閲覧用パソコンの管理まで、幅広く職員のニーズに対応しています。また、6月から再開した一般利用者用の図書室(6階)では、入院患者さんからの要望があれば、県立図書館などからの取り寄せも対応いたします。

「利用者が困られないようにサポートするだけです！」と笑顔で答える図書司書
朝野 かおり

